

第2回知識・芸術・文化情報学研究会(2012年度第2回(通算第17回)情報知識学会関西西部会研究会)報告

田窪直規¹
Naoki TAKUBO

1 近畿大学
Kinki University

日時: 2月09日(土) 13:45~17:10
会場: 立命館大学大阪キャンパス
共催: アート・ドキュメンテーション学会関西西部地区部会
協力: 立命館大学「日本文化デジタル・ヒューマニティーズ」拠点
発表: 7件
出席: 23名

論題: ユーザ種別と閲覧時間を考慮した Web 情報探索の行動特性調査

要旨:

Web 検索の履歴や検索中のユーザの行動を分析することで、ユーザの検索目的や行動特性を把握し、Web 情報推薦に役立てようとする研究が盛んである。本研究では、検索総時間や各 Web ページの閲覧時間と、ユーザの情報検索経験や探索情報に対する知識の有無および Web ページの質に焦点をあて、個人の Web 情報検索の過程を取得・分析した。これにより、ユーザ種別ごとの検索の時間的な特性を把握することができた。

発表3

発表者: 安藤真理子(同志社大学大学院文化情報学研究科 M2)

論題: 宝飾鏡の文様にみる天平文化の特質

要旨:

日本文化の根底とも言えるのが天平文化である。本研究では文様に焦点を当て、人間の意識と深くかかわる宝飾鏡を対象として、天平文化の検討をおこなった。鏡の文様にかかわる先行研究をふまえて、本研究では構図という新しい視点を加えて、文化情報学の立場から、多変量解析による新たな検討を試みた。宝飾鏡の文様・構図分析から「天平文化とは何か」「文化が移り変わるとはどのような事なのか」についての考察を行った。

発表4

発表者: 河中健馬(和歌山大学大学院システム工学研究科 M2)

論題: 全文検索エンジン選定支援システムの構築 検索精度を中心に

要旨:

全文検索エンジンは文書群に対する全文検索機能を提供するソフトウェアであり、独自の全文検

0 はじめに

今年も「知識・芸術・文化情報学研究会」を開催することができた。これは主に若手研究者や大学院生を意識した研究会である。関西西部会としては部会の年次大会的なものとして位置付けている。

当日は2つのセッションに分かれて発表が行われたので、以下各セッションの発表者とその所属、および発表タイトルと発表概要を、発表者提供のデータに基づいて紹介する。

1 第1セッション

発表1

発表者: 上阪綾香(同志社大学文化情報学研究科 M2)

論題: 計量文献学の視点からの西鶴遺稿集の検討

要旨:

本研究では江戸時代前期の作家井原西鶴(1642?~1693)の浮世草子のなかでも、西鶴の没後門下の手によって出版された遺稿集に注目し、西鶴遺稿集の著者問題に関し計量文献学の観点から検討を行った。

発表2

発表者: 遠藤淳一(和歌山大学大学院システム工学研究科 M1)

索サービスを構築・提供する際には不可欠である。全文検索エンジンを選ぶ際の比較項目は様々あるが、検索精度は最も重要な評価項目である。本研究では、検索精度に重点を置き、本文の切り出しを行うことで、検索語を自動化する仕組みにより、全文検索エンジンの選定を支援するシステムを開発したので報告する。

2 第2セッション

発表5

発表者：山路正憲（立命館大学衣笠総合研究機構 RA）

論 題：役者評判記自動索引ツールの開発による研究効率の改善

要 旨：

立命館大学アート・リサーチセンター所蔵の書籍等をデジタルデータ化するにあたり、単語や語句の注釈を併せて添付することでデジタルならではの情報を付加することができるが、その入力にはある程度の人力によるコストが生じる。この入力を効率化することにより、データ整備の円滑化を支援する手法について、役者評判記を例に挙げて発表を行う。

発表6

発表者：金子貴昭（立命館大学衣笠総合研究機構 PD）

論 題：板木デジタルアーカイブを核とした、近世出版総合デジタルアーカイブの構想

要 旨：

発表者は、近世出版研究に関わり、板木デジタルアーカイブの構築を行っている。また、板木デジタルアーカイブと板本デジタルアーカイブをリンクさせ、板木と板本の両者を比較検討させる体制も整えつつある。本発表では、上記に加え、出版記録デジタルアーカイブ、板元デジタルアーカイブ等の諸データベースを相互に連携させ、近世出版研究に活用する「近世出版総合デジタルアーカイブ」の構想について報告を行う。

発表7

発表者：丸茂美恵子*・川上央*・小沢徹*・三戸勇氣*・西川箕乃助*・篠田之孝**

*=日本大学芸術学部，**=日本大学理工学部

論 題：モーションキャプチャ利用による無形文

化財（日本舞踊）の継承支援について
要 旨：

発表者等の研究グループでは、日本舞踊西川流十世宗家西川扇藏氏（重要無形文化財保持者）の長唄『七福神』をモーションキャプチャで計測し、「宗家と門弟」の動作の比較提示システムの開発を試みた。目では見ることのできない精神を受け継ぐことが大切にされる「巧みの技」を独自の動作解析で可視化した本システムの公開と、「巧みの技」を次代に継承していくための支援として本システムがどのように有効であるかを探った。

3 おわりに

研究会では質疑応答が活発に行われた。ただし、若手からの質問が少なかったのが残念であった。懇親会には15名が参加し、楽しい雰囲気の情報交換が行われた。